

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

341号

2019年7月号

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

第26回統一マダン生野盛大に開催！

第26回統一マダン生野実行委員長 孫啓榮 (ソン・ゲル)

第26回統一マダン生野が5月26日、大阪市生野区にある巽公園（通称：ロート公園）に於いて盛大に開催されました。

昨年は予想以上の大雨に見舞われましたが、当日は天候にも恵まれ、真夏のような日差しの中にもかかわらず約2千名の参加者のもと、楽しく有意義な一日を送ることができました。

民族伝統のプンムルで始まった注目の舞台では、朝鮮舞踊や民族楽器演奏、サムルノリに歌やタップダンス、テコンドー演武やスーパーヒーローショーなど、多彩な内容で場を盛り上げ参加者を楽しませてくれました。

今回は昨年に引き続き韓国ゲストとして民衆歌手グループ「ソリタレ」を招請し、舞台と参加者が一体となって盛り上がり、熱い血潮で南北統一に向けた思いとともに、朝鮮半島と日本との平和的連帯を全身で感じることができました。

また当日は多忙な中、尾辻かな子衆議院議員が参席して下さるとともに、例年参加していただいている山口照美生野区長から力強くも爽やかな挨拶をいただきました。

また今回は例年以上の出店があり、焼肉にチジミ、焼鳥、焼きそば、冷やしうどん、かき氷と盛りだくさんの内容となりました。ビール販売では、南北海外で進められる統一運動推進のための朝鮮半島柄のコップを使用するとともに、韓国から取り寄せた統一旗の小旗をアイテムとして使用しました。今後とも活用していただければ幸いです。

また、韓国社会を揺るがせたセウォル号惨事の真相究明と責任者処罰や日帝植民地時代の徴用工問題に関する展示ブースを設置し、多くの参加者に訴えかけました。

統一マダン生野は、その開催を支持する団体・個人によって数ヶ月前から実行委員会が結成されました。数度にわたる会議と準備過程を経て、当日の内容をより豊かに有意義になるよう努力しました。また事前に店舗や個人宅でのポスター掲示

やチラシの配布など精力的に開催を宣伝しながら、生野区内外の店舗や会社企業・個人から実に多くの賛同広告とカンパをいただきました。あらためて各実行委員のこの間の努力と労苦に対し慰労するとともに、支援をして頂いたすべての皆様に謝意を表します。ありがとうございました。

ありがとうございました。

昨年来の南北関係の融和により、これからの平和と繁栄が確認され、今まさに統一時代が始まりました。より具体的にはゆるやかな連邦制統一の時代が始まったと言えます。

祖国の統一とは決して一朝一夕に成されるものではありません。南北の当事者はもとより、私たち一人一人が希望と確信を持って多くの困難や課題を克服していく熱い思いで、海外を代表するともいえるこの生野の地で、ひいては日本・大阪の地で必ずや成される統一のその日まで、共に声を上げ行動して行きましょう。



▲第26回統一マダン生野で挨拶する孫実行委員長

サムルノリにタップダンスなど 多彩な演目で子どもも大人も楽しむ

第26回統一マダン生野は、ハンマウムによるブンムルから舞台演目が始まりました。



▲大阪朝鮮高級学校舞踊部による朝鮮舞踊

次に、今年初出演の大阪朝鮮高級学校舞踊部による朝鮮舞踊、東大阪朝鮮中級学校民族楽器部による民族楽器演奏と続き、こちらも今年初出演になる大阪朝鮮歌舞団によるノレ（歌）とダンスが披露されました。

続いて、孫啓榮実行委員長が主催者挨拶を通じ「昨年朝鮮半島では、南北両首脳による歴史的な板門店宣言の発表を通じて、平和と繁栄へと大きく前進しました」と述べながら、「今年の統一マダン生野は、新たな統一時代を全身で感じて祝う歴史的なマダンにしていきましょう」と参加者に訴え、6・15共同宣言実践日本地域委員会 孫亨根(ソン・ヒョンゲン)議長は「私たち民族の固く団結した力で、祖国統一を実現させましょう」とアピールしました。



▲ハンテペンによるサムルノリの演奏

その後、アジアハウス子ども劇団によるタップダンス、火曜バンドによる歌、ハンテペンによるサムルノリ、文芸同大阪舞踊部の朝鮮舞踊が披露

された後、山口照美生野区長が挨拶を行い、会場から温かい拍手が送られました。

その他にも、韓青大阪本部、朝青大阪本部によるスーパーヒーローショー、キックアーツテコンドーのテコンドーの演武が発表されました。



▲ソリタレによるコンサート

そして、今年の統一マダン生野のラストには、韓国民衆歌手グループ ソリタレによるコンサートが披露され、祖国統一を願う歌などを通じ、会場全体の雰囲気は最高潮に達し、最後に「ウリエソウオン」を合唱して第26回統一マダン生野は終了しました。

ビール・焼肉・焼鳥・冷麺など出店多数



▲多くの出店が並び参加者に好評でした

第26回統一マダン生野では多くの団体・個人の協力を得て出店が並びました。ビールにチヂミ、焼肉に焼鳥、冷やしそうめんなどの飲食店はとても盛況でした。また今年は子ども向けのバルーンハウスも設置され、子どもたちが飛んだり、跳ねたりして好評でした。

その他、反戦平和を訴えるパネル展示などが行われ、参加者の目を引きました。

第26回統一マダン生野感想文

統一マダン生野万歳！

火曜バンド 古賀滋

今年も出演させて頂き、ありがとうございました。

基本は日本人だけの火曜バンドです。国や自治体が差別・ヘイトを行い朝鮮学校への補助金不支給、無償化除外。そんな差別があつては我々日本人も幸せになれない！という思いで毎週火曜日正午、大阪府庁前に思い思いの楽器を持って集まっているのですが、出欠を取っているわけでもないのに十人近い人が集まり、心強いです。



▲舞台上でアコーディオンを弾く古賀氏

中道K党の議員さんが「議員控室まで聞こえますよ」と教えてくださいました。今年の統一マダン生野は欠席の連絡も結構あり、練習もできなかったもので、ひょっとして2～3人かと直前まで心配していました。

「えーい、それでもやるぞ！」と決意を固めたのですが、登壇時間になると各楽器と統一旗を持った「わが同胞」が2桁になっていて感激しました。わがバンドには歌姫もいて、なかなかのものと私は秘かに自慢しています。他の出演者の皆さんほど本格的な音楽・舞踊・劇でもないのに特大の声援を頂きましたこと感謝に堪えません。出演後は、たらふく飲み、食べしながら素晴らしい演目を楽しませて頂きありがとうございました。

統一マダン生野万歳！

ます。あれから26年、私たち民族の統一は本当に簡単ではないとつくづく感じます。でも、朝鮮半島の平和的な統一を願う人は世界中に大勢いて、日本にもたくさんいます。統一マダン生野は朝鮮半島の統一を願う人が、自分のできることを自分なりに行える場所です。そして、その想いを表現できる場でありたいと思っています。

統一マダン生野は毎回多くの方々の協力があって開催することができています。私は統一マダン生野に参加したすべての人が「今年も参加して良かった」と思って帰ってもらいたいといつも思っています。人と人との繋がりを大切にすること、それ自体が統一運動だと思います。



▲セウォル号惨事の遺族に送る署名には、

統一マダン参加者から多くの署名が寄せられました

ここ数年、統一マダン生野では様々な展示も行なってきました。セウォル号惨事の展示は2014年から毎年行っています。この惨事が、なぜ304人の犠牲者を出す惨事になったのか、真相究明はまだ行われていませんが、この惨事と遺族の闘いを知ってもらいたいと思い、統一マダン生野実行委員会で展示をしています。今年は隣のブースで在日同胞の歴史の展示もありました。とても分かりやすく、貴重な写真も見ることができました。貴重な資料を展示して頂き、ありがとうございました。

統一マダン生野はいろんな事ができる場であり、参加した人たちがいろんな事を考え、知れる場でもありたいと思います。微力ですがこれからも私なりに、皆さんと統一マダン生野を大切に、良いものに作っていきたいと思います。

第26回統一マダン生野に参加して 統一マダン生野実行委員 盧幸枝(ノ・ヘンジ)

今年で統一マダン生野は26回目を迎えました。26年前「1995年までに祖国統一を成し遂げよう」というスローガンがあったことを覚えてい

6・15合唱団の美しい歌声で 統一マダン神戸を盛り上げる 第23回統一マダン神戸

5月26日の第26回統一マダン生野に続き、「第23回統一マダン神戸（主催：同実行委員会）」が6月2日（日）、若松公園（神戸市長田区）で開かれ、韓統連大阪本部、韓青大阪府本部のメンバーも参加した。

統一マダン神戸では多彩な文化公演が披露された。最初に三田太鼓のメンバーによる和太鼓の演奏、次に金徹寿キックアーツテコンドーによるテコンドーの演武が披露され、力強い和太鼓の演奏とテコンドーの演武に参加者から温かい拍手が送られた。



▲肩を組んで合唱する統一マダン神戸の参加者

続いて、神戸華僑總會舞獅隊による中国獅子舞が披露された後、崔孝行（チェ・ヒョハン）実行委員長が「統一マダン神戸に参加して頂いた、朝鮮半島の平和と統一、朝鮮半島と日本の友好を願う全ての同胞、日本人の皆さんに心から感謝します。今日一日、有意義な一日にしましょう」と主催者挨拶を行った。

その後、舞台では韓国から招請した6・15合唱団による平和と統一のコンサートが披露され、合唱団の美しい歌声が会場内に響きわたった。

また会場内では焼肉・ビール・塩焼きそば・ギリシャ料理など多数の出店が並ぶとともに、写真で見る在日同胞100年史などの各種展示コーナーが設けられ、参加者の関心を集めた。

統一マダン神戸の後半では、兵庫朝鮮歌舞団による歌と舞踊などが披露され、第23回統一マダン神戸は終了した。

武力で平和は作れない！ 自衛隊の軍拡と憲法改正を阻止しよう！ とめよう改憲！おおさかネットワーク 総会＆公開講演会

安倍政権下で自衛隊の武器装備が拡大していく中、「とめよう改憲！おおさかネットワーク第12回年次総会＆公開講演会 大軍拡は戦争への道！」が6月16日（日）、エルおおさか（大阪市中区）で開かれた。

最初の年次総会では、とめよう改憲！おおさかネットワーク事務局の松岡幹雄さんから昨年の活動報告と今後の運動課題、会計報告が一括して提案され、拍手で確認された後、共同代表の中北龍太郎さんが主催者挨拶を通じ「日本の軍拡が進んでいる。具体的には米国製最新戦闘機F35Bの購入と護衛艦いずもの空母化などがあげられる」と指摘し「武力で平和は作れない。軍拡と憲法改正を阻止しよう」と訴えた。

続いて、ジャーナリストの島本慈子（しまもと・やすこ）さんが「自衛隊の“災害救助”から憲法を考える」をテーマに講演を行った。島本さんは「冷戦終了後、陸上自衛隊は中国の台頭を名目に奄美大島、宮古島などにミサイル部隊の配備を予定している。しかし、3年前に開かれた宮古島での説明会では、争点が軍事問題ではなく、自衛隊の災害での活躍が強調され、面食らった」と語った。

続いて「この間、安倍首相など閣僚が“多くの国民は自衛隊を認めている”などの発言が相次いでいるが、内閣府の世論調査では“自衛隊が実施してきた災害派遣活動をどう評価するか”との質問に、回答者が“大いに評価、またはある程度評価する”と回答したのであって、自衛隊自体を評価・認めているわけではない。民意をわい曲している」と主張した。

そして、今後の課題について「災害についてどんな組織で対応するのか、自衛隊にはどんな組織でいてほしいのかの論議が進んでいない中、各地で災害が起きている。まずは論議を深めることが重要だ」と訴えた。講演終了後は、各団体からのアピールが行われ、年次総会＆公開講演会は終了した。

【コラム】

景福宮にのぼる煙3

大関定祐『朝鮮征伐記』は、ソウル陥落後の景福宮の無事を示すせつかくの史料ではあるが、その成り立ちは極めてうさんくさい。

この本の序によれば成立は寛文乙巳年（1665）。倭乱から73年も後の著作である。この本を書いた動機もまた、著者が31歳の時に秀吉を祀った豊国社の荒廃を嘆き、秀吉の大勲を後世に伝えようとしたものとある。著者の大関定祐は壬辰倭乱時の朝鮮を実際に見ていない。あくまで伝聞や記録を通じて得た話を基に書いたものである。

そもそも日本には、江戸時代に作られた「朝鮮軍記物」と呼ばれる一連の文芸作品がある。その区分はおおよそ、①秀吉の一代記である「太閤記」の一部として朝鮮出兵を描いたもの、②「太閤記」の一部分から脱して中国側史料もふまえて朝鮮出兵を語るようになった「朝鮮征伐記物」、③さらに朝鮮側史料である『懲毖録』が日本に伝わり「朝鮮征伐記物」より詳しく語る「朝鮮軍記物」、④浄瑠璃の「天竺徳兵衛物」などの朝鮮出兵を背景とした創作物に分かれる。

大関定祐『朝鮮征伐記』は2番目の「朝鮮征伐記物」にあたるもので、一種の文芸作品とすべきものだろう。その文章も多く脚色が含まれていると思われる内容であり、漢文調の美文で語られる小西行長一同の号泣シーンなど噴飯ものである。史料としての価値は低いと言わざるを得ない。

では、当時の日本側の記録文書で、景福宮の無事を伝える史料は無いのかといえば、一応あるにはある。小西行長の従軍僧であった是琢明琳が記した『明琳朝鮮役従軍日記』だ。壬辰倭乱時、日本武将の従軍僧は、漢文による筆談や文書作成が行える外交官であり、略奪した書籍を評価・管理する文官、朝鮮国内の事情や一般風俗を分析して書き記す情報官などの役割を果たしていた。是琢明琳もまた、実際に倭乱時の朝鮮を見聞して日記を残しており、そこでは景福宮についてこう記してある。

「北山の下、南面して紫宮を立し、石を削りて四壁を為す。誠に五歩一楼、十歩一閣、…（中略）…その上に紫宸・清涼の二殿、石を以て負棟の柱と為し、四面に上下の龍を彫る。瑠璃を以て瓦と為し、瓦頭にみな青龍を縫る。…（中略）…誠に

龍界ならんや仙界ならんや、凡眼の及ぶ所にあらず」

上記は1593年2月30日条に続いて現れる記事であり、これをそのまま受け取ると朝鮮・明の連合軍がソウルを奪還する4月の2ヶ月前まで景福宮の偉容は保たれていたと考えられる。

しかしながら、これもまた大いに疑問がある史料だ。なぜならばこの記事は「また洛人（ソウルの人）いわく」から始まる長文の一部だからだ。その長文は、ソウルの来歴と地理、景福宮の様子、檀君朝鮮から始まる朝鮮の歴史、風俗、風土を述べ、「それこれ此の地を謂うや」で終わる。これは、情報官としての従軍僧が朝鮮についての情報を紹介する一文であり、作者が実際に見たものである証明がない。むしろ何らかの文書からの引き写しである可能性が高い。この記事を以て、ソウル陥落後の景福宮の無事を証明する史料とするのは、はなはだ危うい。

一方で、景福宮がソウル陥落時、すでに焦土と化していたという日本の史料は多い。松浦鎮信家臣の吉野甚五左衛門の『吉野日記（吉野甚五左衛門覚書）』にはこうある。

「五月二日の夕くれに、都は是より一日路と、聞こえし所の河バたにて、都のかた詠むれば、放火のけぶり立登り、…（中略）…くうでん（宮殿）・ろうかく（楼閣）数々に、だいりだいに火を掛けて、上下万民ことごとく唐国さして落ちにける」

日本の軍兵がソウルに入城する前に煙が立ち上り、宮殿楼閣が朝鮮側の手によって放火されていたと述べている。これは朝鮮側の史料の記述ともおおむね合致する。

実際に景福宮に火をかけたのは民衆であったか、はたまた文書の処分を急いだ官員であったかは分からない。しかし、国王のソウル脱出直前の社会不安を考えるにおそらく民衆の手によるものだったと考えられる。

いずれにせよ多くの文物が失われたのは事実である。無事だったとしても日本の軍兵の略奪と放火に遭っただろうことは、想像に難くないが。

（好）

◆◆映画紹介◆◆

新聞記者

「参議院選挙前にぜひ見てほしい」。この映画を制作した関係者の言葉です。

7月には参議院選挙が実施されます。有権者の皆さんが安倍政権にどのような審判を下すのか注目される中、今回紹介する映画は「新聞記者」です。

この映画、フィクションですが、元になっているのは菅官房長官とバトルを展開して有名になった東京新聞記者の望月衣塑子さんの同名の著書です。

物語は、東都新聞社社会部にある夜、羊がサングラスをした絵を表紙にした大学院大学の新規建設に関する資料がFAXされてきます。誰がなぜ送ってきたのか？この真相を探るために主人公の一人吉岡エリカ記者が取材を始めます。

もう一人の主人公は内閣情報調査室(内調)に勤務する若手官僚の杉原拓海です。彼は政権に不都合なことがマスコミに報道されると、ありもしないストーリーを作り上げ、各方面に情報を拡散させる仕事を上司から命じられ、疑問に思いながら

も仕事をこなしている人物です。

この2人が、あることを契機に大学院大学の新規建設をめぐる真相を追及していくこととなります。



果たして真相は明らかになるのか？

この映画では、現在の安倍政権のもとで実際に起こった事柄が名前などを変えて出てきます。上記の大学院大学新設は、皆さんご承知の安倍首相と仲良しの方が理事長を務める学園の獣医学部新設に関わることで、他にも多数。

私はこの映画を見て、いくつか怖いというシーンがありました。代表的なのは杉原の上司が国会前でデモをする参加者が写っている写真に赤ペンでマルを付け「この写真を公

安に送れ。情報は後で送る」という場面がありました。実際にあるのでしょうか？そしてラストでこの上司が杉原にこう言います「この国の民主主義は形だけでいい」。さて、この意味は？いろいろと考えさせられる社会派の映画です。ぜひご覧ください。(ソソ)

◆◆行事案内◆◆

朝鮮戦争・休戦協定締結66周年、シンガポール共同声明と板門店宣言の履行による東アジアの恒久平和の実現をめざす7・26大阪集会

日 時：7月26日(金) 午後6時 受付 午後6時30分 開会

場 所：エルおおさか(京阪・地下鉄天満橋下車徒歩7分)

内 容：康宗憲 韓国問題研究所代表による講演／参加者からのアピールなど

資料代：1000円

主 催：同実行委員会

問合せ：06-6583-5549(全日建連帯労組近畿地方本部)

編集後記

皆さんのご協力を受け、第26回統一マダニ生野は成功裏に終えることができました。ありがとうございました。6月30日、金正恩委員長とトランプ大統領が板門店で会い、固い握手を交わしました。歴史的な場面でした。次号の自主では、この情勢を正しく分析・解説して掲載します。お楽しみに。(ソソ)